



ともにほほえむ

# ほほえみ

横手朝子様(100歳)

趣味は読書です。新聞と小説を読む事が楽しみですが、メガネをかけずに読める事が自慢です。

## 「新しい年にむかって」

副会長 梅田 滋

会員の皆様におかれましては、高齢化の更なる進展や慢性的な介護職員不足の中、息をつく暇もなく、日々、地域や職場で活動されていることと思います。

さて、明け平成27年は、ひとつの大きな節目の年になります。昭和22年から24年に生まれた団塊の世代の方々が、すべて介護保険の第1号被保険者となって新年を迎える年になるからです。団塊の世代の方々が後期高齢者となる10年先を見据えて、地域の中にどのような高齢者の支援システムを構築していくのか。平成27年は、その具体的な取り組みがスタートする年になります。

介護保険制度も第6期目を迎えます。制度の持続可能性を確保するため、①全国一律の予防給付(訪問介護・通所介護)を市町村が取り組む地域支援事業に移行し、多様化する、②特別養護老人ホームの新規入所者を、原則、要介護3以上に限定する、③一定以上の所得のある利用者の自己負担を上げる(2割負担)、④低所得の施設利用者の食費・居住費を補填する「補足給付」の要件に資産などを追加することなどを、国は重点化・効率化を目指した改正の主な内容としてあげています。

改正の多くは、膨張する保険費用を抑えるための施策と感じますが、私たちが最も着目しなければいけないのは、サービスの充実を目指した地域包括ケアシステムの構築にあると考えています。

地域包括ケアシステムは、高齢者の方々が重度の要介護状態になっても、住み慣れた地域で、その人らしい生活を継続できるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供するシステムといわれています。おおむね30分以内に必要なサービスを提供できる日常生活圏域をひとつの単位としています。今回の改正では、地域包括ケアシステム構築の柱として、①在宅医療・介護連携の推進、②認知症施策の推進、③地域ケア会議の推進、④生活支援サービスの充実・強化の4点をあげています。

このような動きの中、福祉の専門職能団体としての介護福祉士会が、これから先の10年に向かって、地域の中で何を担っていくのか、また、介護福祉士がどう関わっていくのかが問われています。地域包括ケアシステムの認知症施策の推進において、地域包括支援センターなどに認知症初期集中支援チームを設置し、その訪



問担当者の職種に介護福祉士の名前があがってはいますが、その位置付けは今だ不明確です。

介護福祉士の役割を思うとき、神奈川県介護福祉士会20周年記念誌に寄せていただいた、藤村和静氏(当時のかながわ福祉サービス第三者評価推進機構運営委員長)の言葉が、今も心に残っています。

「『生活支援』という、一見、簡単な言葉、私たちが日頃、当たり前に使っている言葉ですが、実は、『生活支援は全人間的支援』である、という重い課題を福祉サービスは背負っているのだということを忘れてはいけないと思います。」この『全人間的支援』の担い手こそ介護福祉士なのです。

私たち介護福祉士は、今、地域の中で専門職として何ができるのかを自ら発信していく時に直面しています。

来年も、会員の皆様のより一層のご協力をお願い致します。

# 11月11日は「介護の日」 ～いい日、いい日、毎日、あったか介護をありがとう～

## 「介護の日」記念・介護セミナー2014 開催

11月5日(水)10時～16時、横浜そごうデパート前イベント広場において介護セミナーを開催しました。今年は、介護相談と介護技術講習、横浜南支部による介護劇、DVDの放映、介護ロボット「パロ」「パルロ」とのふれあい体験、介護に関する情報提供を行いました。

10時からかながわ感動介護大賞表彰式等の案内を入れたクリアファイル1,000部の手渡しと、セミナーへの参加の呼びかけを行い、11時の介護劇「認知症の人の介護」が始まる頃には大勢の人が集まってくださいました。

平日の昼間という事もあり、人出に心配がりましたが、1日を通して足を止める人が途切れることもなく、大変盛況なセミナーとなりました。(広報委員 小野真弓)



「こんにちは。神奈川県介護福祉士会です」



「11月11日は介護の日です」



優しくなると「キューキュー」と、尻尾を振って喜びます。介護ロボット「パロ」。



介護福祉士のゆるキャラ!? セミナーが和みました。



「介護の日」記念・介護セミナー2014の運営スタッフ

## 「介護相談」

広報委員 田島セイ子

介護相談ブースでは、テーブルを4台揃え、できるだけ多く方の相談にのることができるように準備をしました。平日とあって、はじめのうちは通り過ぎる人ばかりで、なかなか立ち止まり相談をしていく人は少なかったのですが、昼に近づくると徐々に人通りも増え、介護相談に立ち寄られる方が出てきました。

相談をお受けした54件の内容は真剣そのもの。やはり実際に介護されておられる方の負担は相当なものと感じました。介護相談を受けた私た

ちは、ゆっくり傾聴し、その方の心に添わせていただきました。中には1時間近くもお話された方もあり、「少し気



笑顔で寄り添い、ほっと一息入れていただきます。

持ちが楽になりました…」と帰り際に仰って頂くと、こちらも感慨無量、嬉しくなりました。



どの方の相談も真剣に、とにかく傾聴しました。

## 「持ち上げない介護技術」

理事 齋藤美貴

介護セミナー会場中央にベッドと車いすを設置し、「持ち上げない介護技術」をデモンストレーションしました。また、来場者からの質問に、家庭でできる持ち上げない介護の方法について紹介し、今まで行ってきた持ち上げる介護の方法は、介護者にとって腰痛や腱鞘炎を起こしやすいこと、介護を受ける人も痛い・怖い思いをしていることやその理由を説明しました。「自分が思っていたのとは違う方法ね、持ち上げていないので、これならできそう!」と納得される方、「こ

んな方法をどこで勉強できるの?」と今後も会の研修会に来たいと希望する方もあり、思った以上の反響でした。



自分の力で起き上がる方法のデモンストレーション

一般市民の方にも「持ち上げない介護技術」を紹介する良い機会を持つことができました。



持ち上げずに車いすに移る体験

## 「介護劇」

理事 田口久美子

「認知症の人の介護」をテーマに、物忘れがあるヨシばあちゃんとお嫁さんの花ちゃんの生活のひとコマを介護劇にしました。途中、ナレーターによる認知症の説明を入れました。お客様は熱心に、白熱の演技に見入ってくれました。

午前と午後の2回公演の予定でしたが、要望があり、急遽3回目の追加公演となりました。観客は年配の

方が多く、延べ120人程の方々にご覧いただき、認知症の人の生活を知り、理解を深めていただきました。



「ご飯、まだあ?」と繰り返すヨシばあちゃんとお嫁さんの花ちゃん。

やはり認知症への関心は非常に高く、初めての介護劇の公演は大成功に終わりました。



大勢の方が介護劇をご覧いただきました。

# 第21回 公益社団法人日本介護福祉士会 関東・甲信越ブロック研修会 in 新潟

平成26年10月3日・4日、関東・甲信越ブロック研修会「専門職介護福祉士の役割」～みんなで創る介護の未来～が開催された。

開会式の後には、3分科会に分かれ、研修が行われた。2日目の記念講演では樋口恵子氏が「人生100年時代への船出」と題し、大介護時代への突入と、介護福祉士の社会におけるこれからの活躍の重要性を語り、会場の心を一つに引き寄せた。

第3分科会に於いて、横浜北支部の山口里香さんが「リーダー育成を目指して」の表題で、事例発表した。(広報委員 齋藤美貴)



## リーダー育成を目指して

山口里香

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会 認知症共同生活介護(グループホーム)  
シャローム・ミルトスの木 管理者

### I はじめに

介護サービスは、人が人に対して行うサービスである。つまり人材が介護の質を左右すると言っても過言ではない。現在介護現場には、質の向上が求められ、人材の確保、職員の資質向上、リーダー育成が重要な課題となっている。

しかし、現状はどうか。当法人は今年16周年、326名、内介護職員272名(介護福祉士104名)の職員で運営している。新人教育は各部署に任せられており、リーダーの育成システムは残念ながら存在しない。

6年前、各部署の役職者の多くが退職するという事態が起きた。当時、特別養護老人ホームの一般職員であった私はグループホームへ異動となり、7ヵ月後管理者となった。突然の職務変更は、業務の細かな引継ぎもなく、責任者としての資質が足りず、未熟なままの私は、時間に追われ、これまでの記録を見て行うという状況だった。更に職員不足で、休日出勤、夜勤明けでも休めず、過重労働が数年間続いた。

法人内の他の事業所でも、職員不足、過重労働は大きな課題であった。数年間の経験を通して、職員が定着し、利用者中心のサービスを提供していくための人材育成が必要と考えるようになった。

2013年私は、法人内で別のグループホームへ管理者としての異動となり、これをきっかけにユニットリーダーの育成に取り組んだ。

### II 具体的な取り組みと結果

1、当グループホームの離職(異動)状況を調査した。

	職員総数	退職	入職	移動
2014年	21	0	1	3
2013年	21	4	2	4
2012年	21	6	7	4
2011年	19	3	2	3
2010年	21	6	4	3

- 2、リーダーの育成を進めるためには、管理者としての自身の資質向上が必要と捉え、介護福祉士会に再入会し、自己研鑽に努めた。
- 3、リーダーの育成は法人全体の問題であると捉え、会議等を通して人材育成システムの構築を訴えた。
- 4、当グループホーム内におけるリーダーの役割を明確にした。さらに、リーダーの業務分担の実態把握をし、資質向上に努めた。

		管理者	リーダー	職員
勤務表作成	従来	○		
	現在		○	
往診医対応	従来	△	○	
	現在		○	△
受診付添い	従来	○		
	現在			
緊急時対応(救急車)	従来	○		
	現在		○	
薬の準備	従来		○	
	現在		△	○
家族対応(通常)	従来	○	○	
	現在	△	○	
夜勤	従来	○	○	○
	現在		△	○
食材、食費	従来		△	○
	現在	△	○	

○→主体

△→休み、不足分のサポートを行う

- ⇒受診は、ご利用者が安定し現在ほぼ無い。  
 ⇒緊急対応は管理者が主であったが、現在はリーダー。しかし基本、その時いる職員が対応するため、全員が繰り返し研修会を行っている。  
 ⇒リーダーの夜勤回数を減らし(従来4,5回)その分フリー勤務を月に5,6日入れるようにした。  
 ⇒食材、食費の管理は不十分であったため、今は適正な価格で収めるようにしている。  
 \*上記より、管理者として本来の業務に充てる時間の確保に繋がった。開所以来、管理者の変更が続き、現在6人目で町内との関係が悪く、9年間の苦情(エアコン騒音、雑草、ゴミ)対策に取り組んだ。2014年7月町内会議にて近所の方より、遂にお褒めの言葉を頂くことができた。  
 5、管理者として、リーダーを含めた職員に対して個人面談を実施した。思いやレベル、今後のビジョン、希望等を確認した。

### Ⅲ まとめ

人材育成は信頼関係が重要であり、外部研修を通し、

お互いが理解して始めて、コミュニケーションを円滑にすることができると学んだ。そのため、個人面談は大変有効と思われる。

結果、業務を任せられ、職務分掌が発揮されて、管理者としての本来の業務に取り組むことができた。そのお陰で、苦情対策に力を注ぎ、良い環境を整えることができたと思う。環境整備は、管理者の大きな役割でもある。私が着任してから職員の退職は無く、ご利用者の大きな事故もみられていない。職員も皆、生き活きと働いている。

介護職員の離職率の多さがとりただされているが、私の法人も例外ではなく、リーダー育成が職員の成長と定着率に繋がることを願っている。

人材育成には終わりがなく、常に継続する必要がある、一人の思いだけでは難しく、その理解者と組織全体の協力が必要なことを痛感した。人材育成の今回の取り組みは、始まったばかりであり、利用者優先のサービスを提供するため、継続した取り組みとしていきたい。

#### 第1分科会

##### 施設介護における 介護福祉士の役割

相模原支部 宮崎恵美子

今回、関東・甲信越ブロック研修会に参加し、新潟の皆様にお世話になりました。

第一分科会では、山梨県より「認知症専門棟の職員が目指すところ」～100歳の利用者から学んだこと～、埼玉県より「高齢者施設におけるターミナルケアについて」～みずほ苑での取り組み～を、栃木県からは「医療と介護をつなぐ」～介護福祉士が果たすべき役割とは～の事例発表が行われました。

どの施設の方も、利用者が安心して、人と関わりながら生活するという基本を大切にしています。

これから必要になる看取りの介護の体制、医療的ケアが必要で入所できずに困っている方、環境の変化で施設に馴染めず不穏になってしまう方についてのケアを事例を通して聞くことができました。私達、介護福祉士は、経験と知識を深め、他職種と連携して地域や家族ともかかわり対応していくことが大切だと痛感しました。積極的に勉強会に参加するよう心掛けたいと思います。

#### 第2分科会

##### 在宅介護における 介護福祉士の役割

川崎支部 手塚宏美

この分科会での発表は、助言者が「3事例ともうちの地域にあればいいのに」と語った程すばらしい内容でした。

男性中心の訪問介護事業所の放つ個性。認知症をもつ高齢聾啞者への支援。デイサービスが施設という枠から飛び出し、利用者の地域社会への参加に向け行動し背を押すこと。いずれも一人が頑張るのではなく、チームワークを発揮し、他職種、他事業所と連携を取ってより良い支援を模索する様が伝わってきました。

最後に助言者が語った「私たちが頑張るのは、利用者が声に出来ない『こうりたい』気持ちを支えるため、ご家族の『後悔しない介護』の実現のため」という言葉が胸に響いたのは、私一人ではなかったことでしよう。

#### 第3分科会

##### 人材育成・教育における 介護福祉士の役割

相模原支部 中野信子

人材育成においては、確かにマニュアル通りに引き継げばよいかと言えばそうでもないようで、現在ある問題点を明確にし、分析整理する必要がある。その為には、日ごろからスタッフの悩みや思っている事などを具体的に聞く事で、改善に結びついたり、やる気を引き出す事が出来る。それによって、信頼関係も強化され、役割分担も広がり運営がスムーズになる。「リーダー育成を目指して」の山口里香さんの発表は、具体的な内容が伝わり、大変参考になりました。介護観は様々でも、それぞれの役目をこなし、視点を共有理解することが大切だと改めて思いました。

## 資格取得のための研修会



### 「ファーストステップ研修」(232時間)を受講して 横浜北支部 岩田 茉芳

有料老人ホームの認知症フロアでケアワーカーとして勤務して4年目の年にファーストステップ研修を受講しました。受講しようと思った動機は、外部の研修で積極的に学ぶ機会を作らないと、介護福祉士として成長ができていないと焦りを感じたからでした。

本研修は長期間にわたって行わ

れ、幅広い領域に関する理解、そして自己覚知を深めてくれるものでした。研修内容も、ロールプレイ、グループ討論、事前課題、事後課題、事例発表など創意工夫されており、毎回興味深く、また、講師の方や他の受講生との交流を通して自分の視野の狭さを気づかされました。

課題が多く、大変な面もありました

が、他職場の方との話は刺激になりましたし、何よりも、学ぶことが楽しいと感じられる日々でした。

研修後は、特にリーダーシップに関して学んだことを自己課題として意識しながら、日々仕事に従事しています。



### 「サービス提供責任者研修」(36時間)を受講して 県央支部 島 博美

職場のサービス提供責任者研修では、帳票の種類や書き方は学べましたが、「なぜそのような書き方をするのか」の、根拠が良く理解できませんでした。介護福祉士のサービス提供責任者研修では、アセスメントの取り方・内容・必要性・情報の関連付けを学べました。訪問介護計画書を作成する時には、個人

の高齢者に合わせた自立支援をする為に、訪問の目的・実現するための目標を設定する事が、大切だと良くわかりました。介護過程の展開を具体的な講義内容でわかり易く学べて、今後の仕事に活かすことが出来ます。グループワークの機会が多くあり、いろいろな視点から考えられた事がとても良かったです。

支援方法については、たくさんのお話が聞けて得ることが多くありました。私がサービス提供責任者として不安に感じていた事を学ぶことが出来て、仕事に少し自信が持てるようになりました。講師の先生を中心に、研修生仲間と仕事の悩みを話し合う機会もあり、今でも研修仲間とは良い関係が続いています。



### 「実務者研修教員講習会」(50時間)を受講して 川崎支部 笠原泰子

私は、平成26年6月～9月までの全8日間、「実務者研修教員講習会」を受講しました。冒頭に『学ぶ中で自己をみつめることが多い研修になる』と、先生から言われましたが、まさにそのとおりでした。この講習会では、単に授業の主内容を習得するだけではなく、“知識を整理した上でポイントを抑えて、いかにして受講生に分かりやすく伝えるか”

“講師には人間性も必要”などという事も重点的に学びました。たとえば、雨の日の思い出を盛り込んだ自己紹介や今朝、目覚めて思ったことをとり入れた朝の挨拶など、その日に出されたお題に沿って即行で発表するには、発想力や構成力も身につけなければならないと痛感し、事前にニュースで最新情報を入手したり、様々な研修会受講時には、

講師の授業の進め方にも着目したり・・・『もっと、いっぱい引き出しをもちたい』と、本講習会を受講して生活意識が変わりました。

介護福祉士の質の向上が求められる今日、スキルの高い介護福祉士を育てる為に、今後も生涯、自己研さんに励みたいと存じます。

## こんにちは 相模原支部です!

相模原市は、神奈川県県央の北部に位置し、北は東京・町田市、東は山梨県と接し、県の面積の7分の1を占める豊かな緑と近代都市機能を持ったまちです。人口約72万人、緑区・中央区、南区の3区からなる政令指定都市です。

会員は現在約90名。これまでにキネステイクス介護技術、メンタルヘルスなどの心理学、コミュニケーションツールとしての紙芝居などの研修会やセミナーを開催しました。また、例年9月中旬に行っている介護相談時には、相談会場の外で賑やかに「よさこい RANBU」が開催されていますので、是非お出かけください。

これからも会員や地域の人たちとのつながりを深められるよう、勉強会や親睦の機会を作りたいと思います。今年度内に介護技術研修、2回目の介護相談を予定していますので、会員のみなさんは是非ご参加ください。



### 介護相談

毎年イトーヨーカ堂小淵店にご協力いただき、介護相談を行っています。



### 帆掛け船

明治から昭和初期まで相模川の物資運搬として活躍しました。現在は8月のイベントで乗船体験ができます。

## ～豊かな自然と近代化のまち～ 各区のおすすめスポット

### 緑 区

中央自動車道から見える、おなじみ「緑のラブレター」のある藤野は、「芸術のまち」「森と水と湖のまち」。『県立藤野 芸術の家』では、芸術体験もできます。

さがみ湖イルミオンでは、500万球のLEDライト（関東一）のイルミネーションが、幻想的な世界を作り出します。

リニア中央新幹線途中駅となる橋本は、ますます近代化されています。

### 中 央 区

相模原市民の一大イベント「桜まつり」は、市役所通りの見事な桜並木と多彩な催しでにぎわいます。

JAXA相模原キャンパスでは、おなじみ小惑星探査機「はやぶさ」の模型展示もあります。

市立博物館では、県内最大級のプラネタリウムで迫力満点の星の世界が楽しめます。



### 桜まつり

今年で41回目となる「桜まつり」は、多くの市民や観光客でにぎわいます。

### 南 区

商業・文教施設集まる相模大野駅周辺はもちろん、相模原麻溝公園内にある「ふれあい動物広場」では、ポニーに乗れる乗馬場や、ヒツジやウサギなどのかわいい動物とのふれあいが楽しめます。

りりちゃん橋でつながる県立相模原公園には、大温室の「グリーンハウス」があり、いつでも南国の雰囲気味わえます。

2つの公園の前にある女子美術大学美術館で芸術鑑賞もできます。

相模原市内には、他にも花火大会や、相模原のこいのぼり、大風まつりなど、四季折々、楽しいイベントがいっぱいです。みなさん、相模原市に是非お越しください。（支部長 島谷光子）